現地実証展示圃成績(平成27年度)

 現地天山茂小田	<u> </u>
担当機関名	岡山県美作県民局農林水産事業部美作広域農業普及指導センター
実施期間	平成 26~27 年度
大課題名	I 大規模水田営農を支える省力・低コスト技術の確立
課題名	モリブデンコーティング種子を用いた水稲湛水直播栽培の検討
目的	津山地域では鉄コーティング湛水直播栽培の普及が進んでいるが、芽
	干しを必要とするので水利のよいほ場でないと取り組みにくい。そのた
	め、落水しなくても苗立ちを確保できると言われているモリブデンコー
	ティング種子の検討を26年度に行ったが、モリブデンコーティング種子
	を用いた場合でも湛水条件下では良好な苗立ちは確保しにくいことが明
	らかとなった。
	しかし、モリブデンコーティング種子は資材費が安価でコーティング
	作業も簡易であるといった特長もあるため、27年度も継続してモリブデ
	ンコーティング種子の検討を行うが、26年度の結果から、湛水条件下で
	の実証は行わず、鉄コーティング種子を用いる場合と同様の水管理で検
	討する。
担当者名	金谷 元
圃場の所在地	岡山県津山市綾部
農家(組織)名	綾部飼料稲生産組合
農家(組織)の	綾部飼料稲生産組合はWCS用イネを生産する組織で、概要は次のと
経営概要	おり (平成 25 年度)。
	①組合員数:21名
	②作付面積:15ha
	③栽培様式:
	移植(12.8ha)、湛水直播(2.2ha)
	④栽培品種:
	たちあやか (9.4ha)、たちすずか (1.5ha)、ホシアオバ (4.1ha)

1. 実証場所

岡山県津山市綾部

2. 実証方法

前年度は、ほ場では湛水、適期落水(芽干し)の両条件下のモリブデンコーティング種子と適期落水の鉄コーティング種子のいずれも苗立率が低かった。モリブデンコーティング種子は、シャーレ試験とポットの落水条件では苗立率、苗立ちの早さともに鉄コーティング種子を上回ったが、ポットの湛水条件では枯死した。そこで、本年度は発芽後の落水管理で検討した。

(1) 実証区の概要

区	コーティング	播種位置	面積
I	モリブデン	表面	13 a
П	モリブデン	浅層 (5 mm)	11. 5 a
Ⅲ(対照)	鉄	表面	13 a

(2) 供試機械名

ヤンマー多目的作業機(RG6X)

(3) 実証条件

ア. 圃場条件 ・細粒グライ台地土 ・排水性:不良

イ. 品種名 • 「たちあやか」(WCS 用専用品種)

ウ. 施肥 ・たちあやか専用一発N37 (37-0-0) 27 kg/10 a (播種同時)

エ. 代かき ・5月6日

才. 播種

・播種日:5月13日、播種量:4 kg/10a

・播種様式:点播 (30 cm×30 cm)

・追加播種:5月29日、播種量:3kg/10a、手で散播

補植:乗用田植機 6 月 19 日 (I モリブデン表面区の 2/3、Ⅱモリブデン浅層区の一部、小麦収穫後の圃場の移植作業に合わせて実施)

カ. 水管理

・5月13日に落水状態で播種、播種後入水、自然落水、5月26日入水

キ. 除草

- ・サキドリ EW (5月6日)
- ・サンバード粒剤(播種同時)
- ・ミスターホームランLフロアブル (5月30日)
- ・クリンチャーバス ME 液剤(6月、7月)
- ク. 病害虫防除 ・なし

3. 実証結果

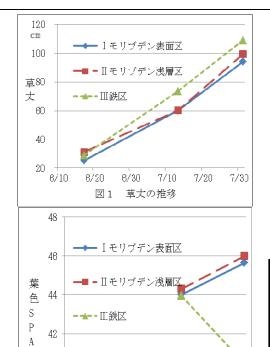
- ・供試した種子の発芽率はモリブデンコーティング種子 94%、鉄コーティング種子 56% であった。
- ・播種後の発芽はモリブデン区が早かった。播種8日後にはIモリブデン表面区で7~8mm、Ⅲ鉄区で2~3mm、Ⅱモリブデン浅層区でも出芽が見られた。
- ・各区とも出芽後の枯死が多かったため、苗立率が 26~28%で低かった。 I モリブデン 表面区は苗立株率 56%のため、補植が必要になった。 II モリブデン浅層区、Ⅲ鉄区は 苗立株率 80%以上が確保された(表 1)。
- ・収量確保のため5月29日に追加播種を行ったが、Iモリブデン表面区とⅢ鉄区の追加 播種もみはほとんど出芽しなかった。Ⅱモリブデン浅層区では出芽は見られたものの、 苗立率はやや低かった。
- ・各区とも茎葉処理除草剤の2回程度の散布による雑草防除が必要となった。
- ・茎数増加はIII鉄区が早かったが、IIモリブデン浅層区も茎数が概ね確保できた(図 2)。 IIモリブデン浅層区はIII鉄区に対して全生重は同等であった(表 2)。
- ・ I モリブデン表面区は、圃場面積の約 2/3 に補植を行い 9.6 ロール/10a、 II モリブデン浅層区は追加播種、一部補植を含めて 6.9 ロール/10a、 III 鉄区は 7.7 ロール/10a で、収量を確保できた。

4. 主要成果の具体的データ

表1 苗立ち状況

	5月13日		6月17日			7月13日
区	播種粒数		苗立株率	苗立数	苗立率	苗立株率
	粒/株	粒/m²	%	本/m²	%	%
Iモリブデン表面	7.3	78	80	21. 3	27.4	56
Ⅱモリブデン浅層			90	23. 1	27.7	83
Ⅲ鉄	8. 2	92	80	23.8	25.8	89

5/13、6/17は各区苗立ちの比較的良い地点20株、7/13は各区約400株調査



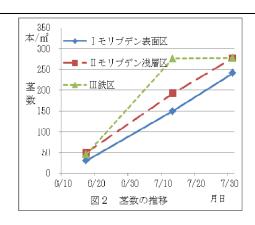


表2 収穫期の生育及び収量

区	程長	穂長	穂数	全生重
	cm	cm	\pm/m^2	kg/10a
Iモリブデン表面	95	23.0	233	3487
Ⅱモリブデン浅層	99	23.6	224	3448
Ⅲ鉄	111	12. 2	246	3431

各区とも苗立ちの比較的良い地点、追加播種の苗立ちは除去

5. 経営評価

・資材費はモリブデンコーティングが安価であり、良好な環境下ではモリブデンコーティングの苗立ちが安定し、収量向上効果も期待できると考えられる。

6. 利用機械評価

6/10

6/20 6/3C

図3 葉色の推移

7/10

7/20

7/30 月日

・播種時の土壌がやや柔らかく、播種作業速度が速かったので表面播種でもやや埋没が 見られた。このような場合には速度を落とすのがよいと考えられる。

7. 成果の普及

・実用性についてはさらに検討を要する。

8. 考察

- ・苗立率が低かった原因として次の3点が考えられる。①代かき後の初期除草剤の影響。 実施農家の経験では過去に同様の使用で問題なかったが、本年は播種前後に天候がよ く平年より高温で経過したことで、苗立率が低下した。②出芽、自然落水後に大きく ひびが入る程度に土壌が乾燥し、固化したことから、出芽後の根の伸長が妨げられた。 ③ I モリブデン表面区、Ⅲ鉄区でスズメの食害が多かった。
- ・苗立率が 26~28%と低かったにもかかわらず苗立株率 80%以上を確保できたことと、「たちあやか」が中生品種(出穂期 8 月 25 日)で分げつ期間が長いため、株間約 30cmでも十分な茎数を確保できた。しかし、安定した苗立ちを確保するためには、代かきから播種までの日数を少なくして初期除草剤を使用しない、7日以上あける場合は影響の少ない除草剤を使用すること、出芽、落水後の急激な土壌の乾燥を防ぐよう水管理に留意することが必要である。
- ・Ⅱモリブデン浅層区は収量がⅢ鉄区よりやや少ないが確保できた。モリブデン区は鉄区と比べて出芽が早いこと、浅層播種によりスズメの食害防止や耐倒伏性を高めることができるメリットがあり、実用性についてはさらに検討が必要と考えられる。

9. 問題点と次年度の計画

- ・細粒グライ台地土、排水性不良の圃場で、本年度は実証条件が悪く、対照のⅢ鉄区の 苗立ちも悪かったことから実用性については判断が困難と考えられる。
- ・次年度の計画なし。

10. 参考写真



Ⅱモリブデン浅層区 5/13



Iモリブデン表面区 5/13 (播種直後)



I モリブデン表面区 5/21(播種 8 日後)



Ⅱモリブデン浅層区 5/21 (播種8日後)



Ⅱモリブデン浅層区 6/17 (播種 35 日後)



Ⅲ鉄区 6/17 (播種 35 日後)



Ⅱモリブデン浅層区 8/27



Ⅲ鉄区 8/27